原子核三者若手夏の学校援助要請

発表者: 東 武大 (京大理・素粒子論・D1)
2002 年度原子核三者若手代表 (京都大学)

1. 原子核三者若手夏の学校の概要
2. 夏の学校の活動報告
3. 2001 年度決算報告
4. 2002 年度予算案
5. 素粒子論グループの皆様に要望する援助

1　原子核三者若手夏の学校の概要

原子核三者若手夏の学校

素粒子・原子核・高エネルギーの分野の大学院生が集まる
巨大な研究会。[2001 年度参加者: 298 人]

2002 年度夏の学校で第 48 回目を迎える。

- 将来の研究に対する土台づくりとしての講義。
- 学生による研究発表を通しての相互啓発。

⇓

- 素粒子・原子核・高エネルギー各分野の研究の活性化。
- 研究者になるための素養の育成。

2　夏の学校の活動報告

2001年度夏の学校の内容

日程　: 2001年 8月 1日 ~ 8月7日開催

開催地: パノラマランド木島平

講義 (講師名の敬称略):

- 素粒子論パート:

  「変貌するひもの統一理論」　糸山 浩　(大阪大学)
  「非可換幾何学と場の理論」　綿村 哲　(東北大学)
  「基本法則の場の理論」　井沢 健一　(東京大学)

- 原子核パート:

  「ハイパー核とバリオン間相互作用」　田村 裕和　(東北大学)
  「高励起原子核の構造 - 集団性と統計性」　松尾 正之　(新潟大学)
  「クォーク物質は中性子星の描像をいかに変更するか？」
  巽 敏隆　(京都大学)

- 高エネルギーパート:

  「B decay による CP 非保存入門」　宮林 謙吉　(奈良女子大学)
  「JLC 計画の現状と展望」　藤井 恵介　(KEK)

- 三者共通講義:

  「超対称性粒子の探索」　川越 清以　(神戸大学)

パート別の研究会:

素粒子・原子核・高エネルギーの各パートにわかれての、学生による研究発表。

夏の学校の改善点

- 研究会の充実。研究会では、学生の研究発表以外にも以下の企画を行なうことで活性化を図る。
  - * 講義の質疑応答のコーナーを設置 (素粒子)
  - * パネルディスカッション (素粒子):
    「素粒子物理学を志す先輩から後輩に向けて」
  - * Topics 講義 (原子核):
    「軽い不安定原子核の奇妙な構造」 延与佳子 (KEK)
  - * Review Talk (原子核)
- 「セクハラ対策 WG」 (後に WG 担当者より報告)

3　2001 年度決算報告

2001 年 9 月 17 日現在

- 収入:
  前年度繰越金: 2,782,408 円

基研援助 (旅費)	484,640
基研援助 (印刷費)	46,200
素粒子論グループ援助	450,000
参加費	873,000
合計	1,853,840

- 支出:

講師旅費	81,480
ポスター代	46,200
学生旅費補助	1,403,780
夏の学校運営費	378,883
合計	1,910,343

- 収支: −56,503 円

繰越金累積の問題

現在、約 280 万円の繰越金が存在しており、その金額は、ここ数年で増加傾向にある。

- 繰越金の金額は、内部には決算報告で明記し、議案書も web 上で公開されているが、これまでの援助申請の場では明言をしなかった。
- 2001 年度は、学生旅費補助を夏の学校後に算定することで、多くの金額を学生旅費補助に還元。なおかつ、従来の累積黒字問題を解決。

4　2002年度予算案

2002年度予算見積もり

- 収入:

前年度繰越金	2,800,000
基研 (旅費)	0
基研 (印刷費)	100,000
素 G	0
参加費	900,000
合計	3,800,000

- 支出:

講師旅費	700,000
学生旅費補助	1,000,000
夏の学校運営費	300,000
次年度繰越金	1,800,000
合計	3,800,000

- 2002年度会計で、繰越金100万円を償却する予定。
- 繰越金の適正金額に関する、三者若手の総意の共通見解は、100 ~ 150万円の範囲内。

2002年度三者若手援助要請計画

1. 素粒子論グループ: 今年は援助申請を辞退。
2. 基研: 印刷費 10 万円のみ申請。
3. 原子核談話会・高エネルギー研究者会議: 昨年度の交渉で、「今後、講師として参加する際の費用はなるべく自分の科研費より捻出すること」について了承済。
4. その他、RCNP・KEK に対して援助要請を行なう予定。

5　素粒子論グループの皆様に要望する援助

- 2002 年度については、援助を辞退させて頂きます。
- 繰越金が適正金額に戻った際には、従来どおりの援助の再開をお願いします。

若手個人の負担額

- 宿泊費: 5,000 円 × 6 日間 = 30,000 円
- 参加費: 3,000 円
- 交通費: 自己負担額の全国平均
  11,000 円 − 5,000 円 = 6,000 円

* 11,000 円: 研究室の補助を別にした、交通費の自己負担。2001 年度夏の学校のアンケートより抜粋

* 5,000 円: 夏の学校からの補助 約 140 万円 ÷ 300 人 = 約 5,000 円

合計: 39,000 円 ⇒ かなりの高額

6 割近い参加者が、夏の学校の費用に負担を感じている。
素粒子論グループの援助は影響大。